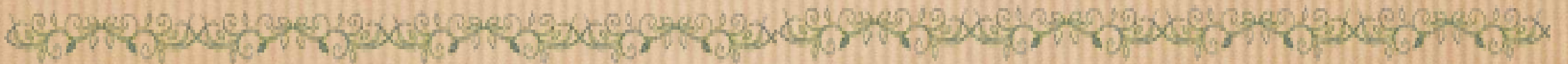


**令和6年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象: 3～5歳児かぜグループ)**



陽だまの丘保育園



テーマ

光と影

設定理由

色水を作った材料によって、光の透過具合に違いがあることに気づいたため。

活動のねらい

疑問に感じたことを調べたり試したりして、科学現象の面白さを味わう。

対象クラス

幼児クラス20名（内訳：3歳児/7名 4歳児/7名 5歳児/6名）

スケジュール

令和6年4月～令和7年3月

興味と疑問



同じ色水なのに、透ける
ボトルがある！なぜ？

身近な人に尋ねる



知るきっかけを
作る

実験



いろんな材料で色水
を作れるように！

<環境構成>



視覚化して比較
できるように！

実験から発見が生まれる



食紅で作った色水は
色の影ができてる！

- 絵の具で色水作りを行い、光を当てて遊ぶ中で、色水を作った材料によって光の透過具合に違いがあることに気づく。
- 他クラスの保育士との交流から、比較することや疑問を持つきっかけに繋がり、絵の具や食紅、花紙など様々な種類の色水を作って比べる。

環境のために準備した
素材や道具

絵の具、食紅、花紙、洗濯糊、水、ペットボトル

子どもたちの育ち

- 自分たちに必要な情報を、会話を通して得ようとする。
- 仮説に基づいて材料を変えて確かめようとするなど、探求心が芽生える。

自分の知識を発信・試す



反射かもしれない



それとも影！？



反射！？

虹色の世界だ～！



色の影だね！

影が作れそうな素材をとことん用意！

- ・“反射”を知っている子どもの発信から、周囲の友だちは「反射ってなに？」と疑問が生まれる。
- ・カラーセロファンでカラーメガネや、スタンドグラスなどを作り、太陽の光に当てて色の影を観察したり、周囲の色が変化する面白さを感じたりする。
- ・ライトを当てるとどのように投影されるか興味が湧いた子どもたちは、保育室にある懐中電灯でカラーセロファンを照らしてみる。

環境のために準備した
素材や道具

カラーセロファン、段ボール、食紅、絵の具、水、ハサミ、懐中電灯

子どもたちの育ち

- ・遊びの中で、自分の知っていることを発信し、知識を活用して疑問を解決しようとする。
- ・散歩の途中や、園庭、保育室の中で、影や反射を見つけるなど環境に目を向けるようになる。

意見交換

影ってどんな所だとよく見えるかな？

光と真っ暗な所が
必要な？段ボールで箱を作れ
ば暗くなるかも！

実践！改良を重ねる



より暗くて、光を強くすると影がよく見える！

子どもの予測に沿って、
道具を用意光が持つ科学現象を
一緒に楽しむ！

- ・影作りに必要な環境を子どもたちなりに考え、“真っ暗ピカピカボックス”と題した巨大段ボール箱作りや、色の透過を活用した手作りライトを制作するなど、友だちと協力して影遊びに熱中する。
- ・投影遊びをする中で、ライトを物体から引いたり近づけたりすると、影の映り方が異なることや、光の強さと影の鮮明さの関係性に気づき、より大きな懐中電灯を使い始める。

環境のために準備した
素材や道具

カラーセロファン、油性ペン、ハサミ、段ボール、懐中電灯

子どもたちの育ち

- ・科学現象の面白さを味わう。
- ・光と影の関連性や特徴を遊びながら学び、“もっとこうしたら面白いかも！”と、試行錯誤する心が育まれる。

影の魅力を深堀り

道具を使って影を作る

一つの物語を作り上げる



保育室に影遊びの環境を

豊かな表現力を引き出す

子どもたちのアイデアを
一つの物語へ

- ・更に物体を大きく映し出すため、スクリーンや白い布を出し、自分の身体やペープサートを用いて投影を楽しむ。
- ・ペープサートを動かしながら、友だちと台詞のように会話をし始めるようになり、物語作りが始まったので、プラネタリウム遠足の思い出を題材に、一つの話にまとめる。
- ・これまでの経験を活かし、カラーフィルムを透過させて電車の窓を表現したり、光の当て方を調整して影の大小を作ったりした。

環境のために準備した
素材や道具

カラーセロファン、割り箸、画用紙、ハサミ、カッター、プロジェクター

子どもたちの育ち

- ・影絵遊びを通じて、“影”という現象の仕組みや特性に気づき、遊びを深める。

全体の振り返り

・色水といった身近なものに疑問を感じたことをきっかけに、自ら調べたり考えたりする過程の中で、不思議に感じたこと、感動したこと、心動かされたことなど、様々な感情を経験し子ども自身の知識や学びに繋がった。子どもの興味関心に応じた環境を整えることで、“知りたい”といった好奇心が育まれ、探求し、物事について思考する力が身についている。幼児期に、自分なりの手段を用いて追究しようとする姿は、小学校以降の子どもの生活や学習の土台になるように感じた。また、友だちと協力して巨大段ボール箱やライトを制作することで、自ら物を大切にしようとする道德性の芽生えを感じる。

